

赤十字ボランティアのための情報誌

RCV

Red Cross Volunteer

2023.02

No. 80

February



つながる。支え合う。

～地域包括ケアと奉仕団連携活動の現在地～



特集
1

赤十字奉仕団と地域包括ケア

～地域ぐるみの支え合い～

特集
2

奉仕団 × 奉仕団

～それぞれの奉仕団の特徴を活かしたコラボとは?～

この情報誌は、RCV編集委員(ボランティア)の協力で作られているガー!
※委員の声は、編集後記に載っています。

赤十字奉仕団と地域包括ケア



地域包括ケアシステムとは、「地域ぐるみの支え合い」のことです。高齢者の方々が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを送り続けられるよう、地域ぐるみで支えるための体制であり、日赤も一人ひとりのいのちと健康、尊厳を守ることに、そのためのより良い地域づくりの推進を目指してこの取り組みに力を入れています。地域包括ケアシステムに対する取り組みをしている奉仕団にお話を伺いました。



CASE 7
岐阜県

空き家を利用したサロン活動「れんげの郷」

岐阜市赤十字奉仕団合渡分団



れんげの郷とは？

岐阜市赤十字奉仕団合渡分団では、社会福祉協議会合渡支部のご理解を得て空き家を利用したサロン活動を行っています。一人暮らしの方が終日話をするのがない、人と会うこともないということを目にし、地域の方々のために何かできないかと考えたことが活動のきっかけです。週に1回の開催で、平成28年からこれまで計220回（R4.11.16時点）活動しました。利用者は近隣にお住まいのご高齢の方で、一人暮らしや昼間一人で過ごしている方がほとんどです。通い続けている女性は「自宅にいたら話をするのもなかった。今はここに来て歌を歌い、昔の服を出して着てくるのも楽しみ」と言っています。

具体的な活動内容は？

ここに来た利用者は、トランプ遊びをしたり、音楽に合わせて軽い体操をしたりしています。奉仕団員は、利用者とおしゃべりしたり、体操の実施、お茶の提供などをします。時折、地域包括支援センターの来訪を受け、健康に関する講話なども行っているほか、地域の保育所、幼稚園児との交流も行っています。また、毎月最終水曜日には誕生日会を開き、誕生日を迎える方に自身のこれからの生き方などをお話しいただいています。「れんげの郷へ来ることがとにかく楽しみなので、最期まで自分の家からここに通い続けたい」という声もあり、私たち奉仕団員は皆さんの想いを聞き、寄り添うようにしています。



活動をはじめからの地域や地域住民の変化は？

地域の方が来所者の送迎をお手伝いくださるようになりました。差し入れや声掛けもしてくれたり、サロンを支えてくださる方が増え嬉しいです。また、活動を知った他地区の奉仕団から見学や話を聞きたいという申し出もあり、大歓迎しています。



白木委員長

活動への想い&今後の展望

利用者は毎週「れんげの郷」に来ることを大変楽しみにしてくださり、私たちもやりがいを感じています。私たちは、「地域の方々は地域の者が見ていかななくては」という想いで活動を続けています。地域の方と奉仕団員の健康と幸せを願い、今後も活動を続けていきたいです。これからも団員が真心をこめて迎えます。



滋賀県内の統一活動「一声ふれあい運動」

「一声ふれあい運動」 とは？

平成10年より滋賀県内の赤十字奉仕団が統一して取り組んでいる活動です。地域の在宅高齢者への訪問活動を通じて、高齢者が疎外感や孤独感を感じることはない住みよい地域社会づくりを目指しています。

東近江市能登川赤十字奉仕団

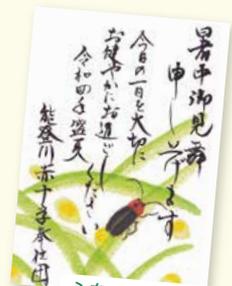
訪問してプレゼントをお渡し！



ニコリ笑顔をいただきました！

具体的な活動内容は？

地域の高齢者宅をお訪ねし、日常生活の見守り、困り事の把握、安否や健康確認をしています。奉仕団だけでなく、地域の団体や人々と連携しながら幾重にも見守りの輪をつないでいます。また、お正月や敬老月間などの季節の節目をとらえて、手作りの年賀はがきや暑中見舞、地域の中学生からいただいたメッセージなどをささやかなプレゼントに添えて訪問時にお渡ししています。



心をこめて作成した暑中見舞のはがき

この活動をしていくうえでの工夫点は？

必ず赤十字マークの付いたエプロンやベストを着用して何うようにしています。高齢者の方々は赤十字マークを見ると安心してくださるからです。また、地域の方々や子どもたち、そして多くの方に活動を知ってもらおうきっかけにもなり、入団にもつながります。

活動に対する 地域の反応は？

エプロン姿の団員が町内を歩いていると「ご苦労様。ありがとう」と声をかけていただけます。「大変やな」と言われたときは、「楽しいのよ。学ぶこともたくさんあるのよ」と笑顔で返しています。

活動への想い&今後の展望

超高齢化がますます進んでいるという現実をしっかりと把握し、地域の一員である私たち赤十字奉仕団員は、地域の支え役として互助の心で活動します。今後も自治会、民生委員、関係団体とつながりながら、誰もが安心して住み続けられるまちづくりに貢献したいです。



田附委員長

長浜市湖北赤十字奉仕団



訪問時にお渡ししたメッセージと折り紙

ただ声をかけるだけでなく、さらに気持ちに寄り添い、少しでも晴れやかな気持ちになっていただくために何ができるのかを考え、工夫しています。普段の生活のなかでも地域の暮らしの安全や安心を住民自身で支えているという気持ちが団員のなかにも高まっています。

守山市赤十字奉仕団



児童のメッセージ入りプレゼント

地元の河西小学校5年生の児童にメッセージを書いてもらい、年4回の高齢者訪問活動時にお渡しするプレゼントに添えています。高齢者訪問活動を通じて、これからも奉仕団の活動が必要だと痛感しています。小学校とも連携を深めながら、安心して暮らせるまちを目指して、身近な地域活動を頑張ります！

仙北市角館町赤十字奉仕団



和(のどか)サロンとは?

角館町赤十字奉仕団では、武家屋敷石黒恵家(文化遺産)を会場として月に1回和サロンを開催しており、地元の高齢者のための地域包括ケアに取り組んでいます。和サロンは、生活支援体制整備事業の第2層協議体メンバーの中から奉仕団員2名が中心となって空白地域に立ち上げたサロンです。始めて2か月くらいは、団員がチラシをポスティングしたり、知り合いに声をかけたりして人を集めるのに苦労しましたが、今では、70~80代の10名ほどの方々にご利用いただいています。



講習で学んだ癒しのハンドケアを実施

健康生活支援講習を活かし満足度を追及

最初はお茶を飲んだり、悩みを聞いていたりしたのですが、同様のサロンは他にもあり参加者も物足りないのではと感じていました。「もっと高齢者が楽しめるものにしたい」。そう模索していた冬の寒い日に、健康生活支援講習で学んだホットタオルのケアをしてみたところ、大変喜ばれたのでサロンの活動に講習での学びを取り入れてみようということになりました。

私たちは、これまでに癒しのハンドケア、リラクゼーション、口腔ケアなどを講習で学んできました。その学びを自分たちで体験して「これは役立つそうだ」と思ったものを、サロンの参加者に合わせ工夫し活用しています。



防災キットの作成



ラップ芯を使った「チア体操」

具体的な活動内容は?

建物が古く、場所も8畳二間と限られていて激しい運動はできないので、座ったままできるハンドケアやリラクゼーションなどを取り入れるようにしています。中でも「チア体操」は、地域の料理屋さんに提供していただいた業務用ラップの芯を使って行う体操で、参加者に好評をいただいています。参加者一人ひとりが思い思いのカスタムをほどとしたラップの芯は、体操もできるし肩もたたけると重宝されています。

活動への想い&今後の展望

新しいことを始めるのは難しそうですが、やろうと決めれば手探りでも進められるので、まずはやってみようと思う気持ちが大切だと思っています。ただ、奉仕団の活動は一人でできるものではありません。周りの理解を得ながら今後は他の地域にも声をかけ、コラボしながらサロン活動をもっと広めていければと考えています。



赤川委員長

一人ひとりのいのちと健康、尊厳を守ること、そのためのより良い地域づくりの推進。
皆さんの日頃の活動こそが地域包括ケアです。
今後たくさんの方々と支え合い、活動を進めていきましょう!





奉仕団同士が連携し、それぞれの特徴や強みを活かして行うコラボ活動は、赤十字ボランティア活動にさらなる広がりと可能性をもたらしています。今回は埼玉と大分の2つの事例を紹介します。

CASE 1 2つの奉仕団がつながりコラボ勉強会を実現！

埼玉マジック赤十字奉仕団



マジックを行いながら楽しく赤十字活動を普及することを目的に結成。学校・福祉施設等への訪問や赤十字のイベントで活動しています。

埼玉県子育て介護赤十字奉仕団



幼児安全法・健康生活支援講習の指導員や支援員の資格保持者で組織。病院の待合室や福祉施設でリラクゼーションなどの奉仕活動を行っています。

埼玉県支部では、埼玉県子育て介護赤十字奉仕団の働きかけにより、昨年、埼玉マジック赤十字奉仕団とのコラボ勉強会を実施しました。この新しい取り組みについて、2つの奉仕団にお話を伺いました。



栗田委員長



坂崎さん



長嶋委員長

埼玉マジック赤十字奉仕団

埼玉県子育て介護赤十字奉仕団

一なぜ他の奉仕団とコラボ活動をしようと思ったのですか？

埼玉県子育て介護赤十字奉仕団 (以下:子育て介護): 10数年前の赤十字フェスティバルでマジック奉仕団の存在を知り、とても楽しげでいつか一緒に活動できたらなと思っていました。コロナ禍で外部との交流もないので、マジック奉仕団に来ていただいたら幼児安全法の勉強会も楽しくなるのでは、と思ったのがきっかけです。

一他の奉仕団と活動することに抵抗はありませんでしたか？

埼玉マジック赤十字奉仕団 (以下:マジック): 「みんなにマジックを楽しんでもらいたい」というのが私たちの活動の基本です。技術を見せるというより、「おしゃべりマジック」を楽しんでいただくことを目的として活動しています。以前も鴻巣市赤十字奉仕団から依頼を受け地域でマジックを披露した

経験もあり、他の奉仕団と活動を共にすることを特別なことと感じたことはありません。

一当日の様子はどんな感じだったのでしょうか？

マジック: 今回は勉強会で子どもの参加はなかったので、大人向けに考えたマジックショーを披露しました。その他、バルーンアートも披露してバルーンで犬やキリンを作り、大変喜んでいただきました。

子育て介護: 通常の勉強会では見ることでできない団員の笑顔でいっぱいでした。団員からは「もっとたくさんの人に見てもらいたかったね」と、残念がる声も上がっていました。

一コラボ活動の良さととはどんなところでしょうか？

子育て介護: コラボ活動は、自分たちとは違う思いを持って活動をしている他の奉仕団を知ることが出来る良い機会です。勉強だけの集まりでは団員同士の交流も難しく、また、コロナ禍で他の奉仕団とのつながりも途絶えがちな状況において、視野を広げることができる大変有意義な活動だと思います。コラボの素晴らしさを実感したので、今年も日赤埼玉水上安全奉仕団とのコラボ勉強会を実施しました。

一今後の展望やメッセージがあればお願いします。

マジック: 自分たちの得意なことで他の奉仕団を楽しませられるのは大変嬉しいことです。奉仕団同士が高め合える場でもあるので、もっとコラボ活動が広がってくれればと願っています。

子育て介護: 直接自分たちの活動につながらなくても、こんなことをしたいという気持ちが大切です。気づきが生まれるチャンスでもあるので、どんどん奉仕団同士の活動を広めて欲しいと思います。



大分県
青年赤十字奉仕団



地域奉仕団・特殊奉仕団

大分県青年赤十字奉仕団（以下大分青奉）では、他の奉仕団とコラボし、その奉仕団の魅力をSNSで発信するという企画を立ち上げました。自分たちの得意とするSNSを利用した情報発信で、他の奉仕団の素晴らしい活動をより広く知ってもらいたいという気持ちから始まった活動の様子を、大分青奉のメンバーにお話いただきました。



富士崎さん

大分県青年赤十字奉仕団

高校から青少年赤十字の活動に参加し、活動歴は10年以上



石本さん

大分県青年赤十字奉仕団

大学生のときから赤十字の活動を始め、活動歴は8年目に突入

TwitterとInstagramで他の奉仕団の魅力を紹介

私 たち大分青奉は、防災、減災に関する研修会を企画・実施したり、地域での清掃ボランティアを行ったりしています。そして、それらの活動の様子を大分青奉のSNSで発信しています。しかし、私たち青奉以外にも赤十字では多くのボランティアが活動していますが、日頃どういう人がどのような活動をしているのかはあまり知られていません。県民の皆様にも他の奉仕団の活動を広く知ってもらうにはどうすればよいかをずっと模索していたところでコロナ禍となりました。対面での活動が制限されて

しまったことも大きなきっかけとなり、私たちが他の奉仕団にインタビューして記事を書き、TwitterやInstagramなどのSNSで活動や魅力を発信するというコラボ企画を考えました。



大分県青年赤十字奉仕団公式Instagramに掲載した取材記事「もっと知りたい!赤十字ボランティア」。(写真はイベントでの大分県赤十字救急安全奉仕団)

SNSは得意!でも電話や手書き原稿には大苦戦!

ま ず「私たち青奉はこのような企画を考えています」という内容の手紙を、支部職員の方に協力していただき、奉仕団に送付することからスタートしました。自分たちの活動を発信してみたいという奉仕団に対して、取材方法はメール、電話、お手紙のどれがよいのかなどアンケートを取り、取材を進めていきました。

私たちは電話や手紙でのやり取りに慣れていないため、はじめは電話をするときも手が震えてしまうほどでした。しかし、実際に電話やお手紙でやり取

りしてみると皆さん優しい方ばかりで、取材は順調に進み、活動内容を聞いているうちにその活動に参加してみたい、もっとその奉仕団のことを知りたいたいと思うようになりました。

取材させていただいた奉仕団の活動はどれも興味深いのですが、特に印象に残っているのは、呈茶を通じて人々の心を癒す活動を行っている特殊奉仕団「いち碗茶赤十字ボランティア」です。東日本大震災のときは、宮城県の仮設住宅を訪問して呈茶で被災者の方々の心を癒す活動をし、現在も交流を続けているとのことでした。

もうひとつ、「国東市赤十字奉仕団」は、地域の防災訓練で非常炊き出しを行ったり、放課後に小学生を預かったりするなどのボランティアをしています。地域の課題を見つけて活動しているのが素晴らしいと感じ見習いたいと思いました。

国東市赤十字奉仕団の取材記事。市の防災訓練や小中学生に向けた非常炊き出し体験などのさまざまな活動を紹介。



お互いの団に良い影響をもたらしたコラボ活動

取材を通じて普段接することのなかった他の奉仕団の活動を知ることができ、視野が広がったことはもちろん、この活動を通して顔の見える関係をつくることができました。その後、青奉の研修会で他の奉仕団から講師を招き得意分野について教えていただくなど、自分たちだけでは実現できなかった活動ができるようになりました。

また、地域・特殊奉仕団の方は、年齢層が高いので人生の先輩として学ぶことも多く、本当に実りの多い経験となりました。年齢層が高いということは

TwitterやInstagramで発信しても、もしかしたら見てもらえないのかなという不安もありましたが、実際は結構見てくださっている方も多く「見たよ」と声をかけていただきとても嬉しかったです。



大分青奉メンバー集合！

考えてばかりでなく「やってみる」「周りに相談してみる」が大切

今後は、赤十字内はもちろん、それ以外のボランティア団体ともつながっていきたくと考えています。そして取材するだけでなく、取材する奉仕団の活動に実際に参加することも盛り込んだ「2つの広報」というプランを新たに考えています。ひとつは、私たちが他の奉仕団の活動に参加しながら取材をして、記事を書きSNSに投稿するというもので、もうひとつは、所定の様式に活動の内容を書いて送っていただき、記事を書いてSNSに投稿するというものです。この企画は現在始動に向け準備を重ねています。

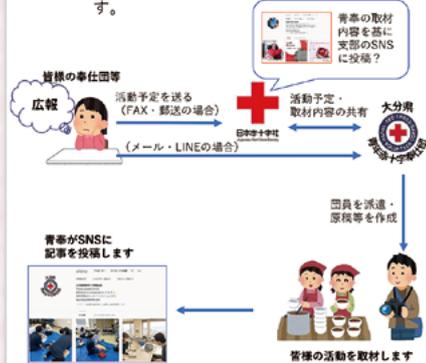
今回のコラボ企画は、他県の青奉団員も見てくださっていて「私たちもこのような活動してみたい」というメッセージも多くいただいています。これからも全国の青奉とお互いに協力、刺激し合い、そして、このような活動を通し、青奉が赤十字ボランティアの方々と関係を強化することで、青奉団員が青奉を卒業した後も赤十字ボランティアとして活動を続けられるようにしていきたいです。

新しいことを始めるには不安もあると思いますが、計画を練るばかりではなく、とにかくやってみることが大事だと感じました。また、団員で意見を出し合ったり、支部職員の方に相談することも大事です。できないと思っていることもきっとできます。そして、その先にはもっと素晴らしい発見があるかもしれないので、ぜひ皆さんもチャレンジして一緒に赤十字の活動を盛り上げていきましょう！

始まります！選べる2つの広報。

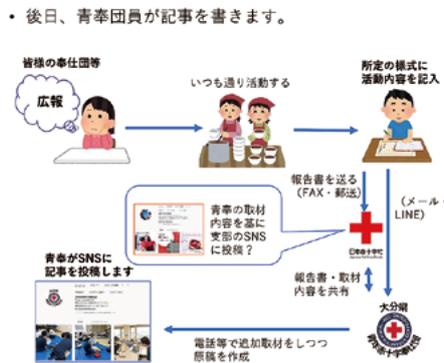
①行きます！

- 青年奉仕団員が活動に参加しながら取材します。



②教えてください！

- 所定の様式に活動の内容等を書いて送るだけ！
- 後日、青奉団員が記事を書きます。



各奉仕団へコラボを呼びかけるにあたり作成したチラシ。イラストを使ってわかりやすく活動内容を説明することを心がけた。

大分県青年赤十字奉仕団のSNSアドレスはこちらをチェック！

- Instagram : oitarcy
- Twitter@ : @oitaRCY3939
- HP : <https://rcy-oita.jimdofree.com/>





赤十字飛行隊新隊長就任!!



平成28年度熊本地震災害時に
物資搬送をした赤十字飛行隊

赤十字飛行隊とは…?

赤十字飛行隊（赤十字飛行奉仕団）は、航空機を使用して日本赤十字社が行う災害救護等、人道的な業務に無償で協力することを目的として結成された日本赤十字社本社直轄の特殊奉仕団です。

これまでの主な活動としては、新潟地震災害、サハリン地震、北海道南西沖地震、雲仙・普賢岳噴火災害、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災などが挙げられます。また、災害での救護支援のほかに、血液輸送、緊急臓器搬送、医薬品輸送なども行ってきました。

新隊長就任!!

この度、赤十字飛行隊運営委員会及び令和4年赤十字飛行隊全国支隊長研修で、新たな隊長が選出・承認され、第5代隊長として熊本支隊長の新永隆一さんが就任しました。

新隊長が所属する熊本支隊は令和4年度に(株)NTTドコモ九州支社様と「災害時における被災者支援のための相互協力に関する協定」を締結し、合同の訓練も行うなど、災害時の活動への備えにも取り組んでいます。



新永隊長

新隊長の ごあいさつ

素晴らしい先輩たちが築き上げてきた赤十字飛行隊。5代目飛行隊長の就任にあたり改めてその責任の重さを感じています。赤十字飛行隊の隊員は、社会に対する報恩奉仕ができる方々の集まりだと思っています。今後起こり得る災害に対しどのような形で赤十字飛行隊が貢献できるか皆さんと考え、活躍の場を広げていけるよう努力したいと思っています。今後ともよろしくお祈りします。

読者のみなさんの声

大募集!

RCVをよりよい情報誌にするために、みなさまのご意見をぜひお聞かせください!

- 1 今号の特集へのご意見・ご感想
- 2 こんな特集が見たい!
「こんな活動がしたい!どこかでしていないかな?」等、知りたい活動はありませんか?
- 3 活動を全国に伝えたい!
掲載したい活動がありましたら、ぜひお知らせください。
- 4 RCVをメール配信しています! 配信をご希望の方は送信先のメールアドレスをご記載ください。

上記 ①~④ をご記入のうえ、メールにて rc-volunteer@jrc.or.jp までお送りください。



QRコードからもご回答いただけます

PRESENT

抽選で
10名様に

ハートラちゃん
ボールペン
をプレゼント!!



3月31日(金)必着

郵送の場合は

〒105-8521
東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 事業局 パートナーシップ推進部
ボランティア活動推進室 青少年・ボランティア課 宛



RCV バックナンバー はこちらから

<https://www.jrc.or.jp/volunteer-and-youth/volunteer/document/>



全国の様々なボランティア活動が見られます。活動のヒントを探しませんか?

Editor's Note

編集後記

今回取り上げた内容では「つながり」ということを意識しました。中でも「地域包括ケア」というテーマから、人と人、人と地域のつながりが、お年寄りの方を独りにさせないのだと学びました。他の奉仕団の活動を知ること、私たちも「つながり」を意識した活動を送れるようにしたいです。

(特集1担当：磯野祐一/遠藤陽奈/東山薫乃/湊晴賀)

私たちコラボチームでは、RCV編集委員を担当することは全員が初めてでした。取材でどのような質問をするか、記事はどのようなデザインにするか、など想像していたよりも多くのことが私たちメンバーに一任されており、その自由度に驚きながらも楽しく活動することができました。

(特集2担当：御園葉月/千田亜由美/倉本悠里/佐藤千咲)